

「脳トレ」ブーム 支配は服従を享樂し、服従は支配を育む

The "Brain Training" Boom: Control Reveals in Submission, Submission Cultivates Control

柿本昭人

Ashito Kakimoto

回転木馬の時間こそは、とりわけ苦々しい特別な時間である。

『ロケタル』黒いヒロイン

I 痴呆・認知症・心神喪失

「強い」を示すために、新しい「弱い」を設える。それがわれわれの世界である。縦置きされた回転木馬。「高い」は「低い」へ。「低い」は「高い」へ。停止した回転木馬を一刻み動かすには、新しい木馬を一台、据えつければよい。それを人は「改革」と呼んでいる。「弱き者は幸いである」と呼びかけるにも、一段高いところを用意しなければならなくなる。

じくどぐレグスのリングに上がってきたゴッドファーザーに「どおししたらあ、きたじまさんに、かてますかあ」と相談する。ゴッドファーザーは「へっどおわーくう」と答える。慎太郎は、そのアドヴァイスにしたがって、トレーニングを開始する。慎太郎が持ち出したのは、任天堂の『東北大学未来科学技術共同研究センター川島隆太教授監修 脳を鍛える大人のDSトレーニング』だった。会場に笑いの渦が起きる。私も笑ってしまった。

慎太郎が必死の形相で一桁の計算問題を解いている。正解、不正解、不正解、不正解、正解、不正解、不正解、不正解……。慎太郎の計算結果に対して、DSのモニターには次々と赤い○と「レ」がついていく。そして、DSのモニターは「脳年齢測定」の画面となる。「あなたの脳年齢は」――画面は一瞬静止し、「二〇〇歳」と。会場は大爆笑。私もさらに大きな声を上げて笑ってしまった。

花道を通って、慎太郎がリングに登った。

この世界の欺瞞に障害者プロレス「ドッグレグス」は否を唱えてきた。――二〇〇六年四月八日、私は友人二人と一緒に北沢タウンホールにいた。ドッグレグス二五周年記念大会を観戦するために。七〇回目の興業のタイトルは、ズバリ、「15」である。場内は満員。早めにチケットを購入しておいてくれた友人に感謝した。リング正面中段席は、リングの向こう上面に設けられたスクリーンもよく見える。

最初の試合は、団体を二五年間引つ張ってきたアンチテールゼ北島と、団体設立のきっかけ、「女子大生を奪い合つて」の当事者であり、かつ最初期からずっとリングに上がってきたサンボ慎太郎の対戦だった。対戦カードが告げられた後、選手紹介がスクリーンに映し出された。慎太郎は北島に勝利すべく作戦を練る。しかし、考えあぐねて、同

生まれるのを分娩室の前で待つ父親のように落ち着きがない。脳性麻痺の障害を抱える慎太郎は、いつもそんな男だ¹⁾。

一五年前と同じだ。しかし、少し薄くなった慎太郎の後頭部が歳月の流れを思い起こさせる。「脳トレ」の甲斐なく、試合開始を告げるゴングも鳴り止まないうちから、慎太郎は北島の攻めに防戦一方。第一ラウンド二分ももたず、慎太郎は北島に「腕ひしぎ逆十字」でKOされた。頭を掻きながら恥ずかしくて北島に背を向けた慎太郎に、北島が言う。「慎太郎、お前、相変わらず弱いなあ」。

「お前、相変わらず弱いなあ」という北島の言葉から、私の頭のなかには、こんな光景が浮かんできた。「頭が良くなる」という謳い文句に踊らされて、慎太郎が「脳を鍛える大人のDSトレーニング」ばかりしている。興業の日が近づいても、一向に練習に熱が入らない。スパリングにも集中できない。顔を合わせば、「きたじまさん、きたじまさん、ほとこのうねんれい、きょうは○○さいになりましたあ」。